

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2014年(平成26年)

2月16日(日)

発行所 琉球新報社
郵便番号 〒900-8525
那覇市天久905番地
©琉球新報社2014年

41歳、葛西が銀

男子ラージヒル

冬季の日本最年長

【ソチ共同】ソチ冬季五輪第9日の15日、ノルディックスキージャンプ男子ラージヒル(HS140)で41歳の葛西紀明(土屋ホーム)が139点、133.5点の合計277.4点で2位に入り、7度目の出場初めて個人種目のメダルを手にした。冬季五輪の日本勢最年長メダルで、今大会の日本選手団のメダルは5個になった。



第9日

金目指し頑張る

ジャンプでは、団体で 会ぶりのメダル。 10季ぶりに勝って最年長の表彰台を射止めた。伊優勝し、ラージヒルで船 葛西は北海道出身で、 優勝記録を更新するなど 東大貴(雪印メグミルク)とと呼ばれたかったが、また金メダルという目標が輝くなど大活躍した19 体で2位。今季は1月に ノーマルヒルで8位に入 できた。諦めずに目指して頑張りたい。98年長野五輪以来4大 ワールドカップ(W杯)で 賞し、ラージヒルで念願 扱(北野建設)は13位。



ジャンプ男子ラージヒルで銀メダルを獲得し、声援に応える葛西紀明(ソチ)

レジェンド大仕事

心技体かみ合らう



ジャンプ男子ラージヒルで銀メダルを獲得した葛西紀明の2回目11ソチ

「レジェンド(伝説)」と呼ばれる葛西が、ついに個人種目で銀メダルをつかんだ。W杯個人総合で3位につける勢いに乗り、冬季五輪最多となる7度目の大会で「調子がいいので金メダルを狙う」と挑んだ。頂点には届かなかったが、大仕事をやってのけた。日本選手団主将の責任を果たした。W杯個人戦で積み重ねた出場試合は1989年の初挑戦以来、443試合の初挑戦以来、443試合

合。日本男子選手最多の通算16勝を誇り、ジャンプが盛んなドイツなどでの知名度は抜群に高い。五輪では個人種目の表彰台に立ったことがなかった。長野の団体制覇もメンバーではなかった。直前のけがや重圧のため力を発揮できず「悔しい思いばかりしてきた」という。「ガラスのエース」とも呼ばれた男は40歳を超え、心技体がかみ合った。



男子ラージヒル決勝 2回目の飛躍を終え、日本選手とともに笑顔を見せる葛西紀明(48)11ソチ

- ◇ジャンプ(ルスキエゴルキ・センター)
 - ▽男子ラージヒル(H S140点、K点125点)
 - ①カミル・ストッホ(ポーランド)278.7点(139点、132.5点)
 - ②葛西紀明(土屋ホーム)277.4点(139点、133.5点)
 - ③プレブツ(スロベニア)274.8点(135点、131点)
 - ④伊東大貴(雪印メグミルク)252.5点(137.5点、124点)
 - ⑩清水礼留飛(雪印メグミルク)252.2点(130点、134.5点)
 - ⑬竹内択(北野建設)249.3点(132.5点、122.5点)
- (最長不倒はワシリエフ・ロシヤの144.5点)

葛西 紀明(かさいのりあき、土屋ホーム)スキー・ジャンプ男子ラージヒル)92年アルペールビル大会から7大会連続の五輪出場。94年リレハント五輪団体銀メダル。1月にW杯史上最年長優勝を記録し、通算勝利数はジャンプ日本男子最多の16。本場欧州では敬意を込めて「レジェンド(伝説)」と呼ばれる。所属先では監督も兼任。北海道・東海大四高出。177センチ、62キログラム。41歳。北海道出身。